

辺野古通信

第15号 2009年3月30日



発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

「米海兵隊グアム移転協定」の国会批准を許すな!



■2月17日の日米外相会談で「在沖米海兵隊グアム移転協定」が署名され、国会承認案件として24日に閣議決定され上程されました。この協定は、2006年5月の日米「合意」米軍再編ロードマップの内容を、条約に準ずるものとして既成事実化するための「米軍再編推進協定」（琉球新報）です。背景には、米軍再編の要とされる普天間基地の辺野古沿岸移設＝巨大軍事基地建設の作業が沖縄の人々の粘り強い抵抗で進捗しない事態と自公政権の先行きに対する米オバマ政権の苛立ち・不安があると推測できます。協定では、これまで「抑止力の維持」とされていたものが「抑止力の強化」と表

現され、米軍再編が「地元負担の軽減」どころか日米軍事再編・基地強化に他ならないことを自ら暴露しています。3月25日には沖縄県議会が意見書を採択、日本政府に対する要請行動を展開予定です。協定の国会批准を阻止しよう!

■増え続ける米兵の事件・事故、キャンプハンセンで強化される実弾射撃訓練の被害、騒音をまき散らす嘉手納基地へのF22一時配備や、日米共同訓練など、基地強化の動きは顕著になっています。日米両政府による沖縄の要塞化・軍事属領化の策動を許さず、日米軍事再編・基地強化に反対し、基地と軍隊のない社会をめざす闘いを、沖縄の人々と共に!

◆ ◆ ◆
■通信は07年8月以来、約1年半ぶりの発行。沖縄講座の活動も辺野古・高江カンパも継続しています。カンパは本年1月に100万円を超えました!ご協力に感謝!この間の活動は、更新を再開したHPに掲載してきました。5月には第13回ピースフルツアーを予定しています。引き続きご支援・ご協力を!カンパは、郵振00210-0-2021 沖縄連続講座

『反国家宣言～非日本列島地図完成のためのノート』7.11 横浜上映会へ!

7月11日(土)14時 スペースオルタ (新横浜駅7分)

前売券 1000円 当日 1500円



「沖縄青年同盟の「沖縄語裁判闘争」からはじまり、非日本列島地図を描くように、大阪の沖縄人集落、1972 復帰をはさむその前後の沖縄に移動、さらに八重山の台湾人移住者を訪ね、それから一挙に北へターンし北海道のアイヌへと至る旅の記録」。映画に登場する仲里効さんに「<復帰＝再併合>を問う」と題して講演していただきます。

アメリカ・パンダ！ 兵隊を拒否した者は訴える！
イラク・アフガン戦争を終わらせるのは私たちが

大和で日米反戦交流集会(3/11)



◇ジェフ・パターソンさん(40歳)

カリフォルニアの田舎町を抜け出たくて海兵隊に入隊。沖縄に赴任して見たのは、沖縄の人々に対する海兵隊員の人種的な偏見と差別。韓国・フィリピンに行っても同様。沖縄で核弾頭を扱う任務に就いたが、なぜ自分はこんなことをしているのか、基地の中では何も口に出せなかった。4年間兵役を務めて帰国する予定が、湾岸戦争が始まり派遣を命じられた。上官から「核を使ってイラクの人々を殺すこともある」と言われ、事前訓練で広島原爆の映像を見せられた。とても自分にはできないと思った。「私は湾岸派遣を拒否する。核を使って人殺しはできない」と言って、軍の刑務所に2ヶ月間拘留。除隊後、兵役を拒否する若者を支援する活動を続けている。今回の交流ツアーで、沖縄にいたときに基地の外から抗議活動をしていた沖縄の人々と出会えるのが楽しみです。

3月11日、大和市健康福祉センターホールにて「抵抗する勇気」日米交流+「アメリカばんざい」上映集会が開催され、300人の会場がほぼ満席。主催は厚木爆同と厚木基地第四次爆音訴訟団。「抵抗する勇気 courage to resist」は、2003年にイラク侵略戦争への従軍を拒否した最初の海兵隊員・ステファンファンクさんの支援活動を契機にサンフランシスコで誕生し、従軍を拒否する兵士と家族の支援をしています。この「抵抗する勇気」の責任者のジェフ・パターソンさんとテキサス州サンアントニオ市で米軍基地の環境汚染問題に取り組む地域ユニオンのメンバー3人が来日、今月下旬の沖縄まで各地の反戦反基地運動との交流ツアーを展開。メンバーは11日当日に地元のキャンプ座間ゲート前抗議行動に合流した後で、夜の上映集会でスピーチ。PTSD、自殺、貧困、ホームレスという帰還兵の悲惨な現実とアメリカ国内の米軍基地周辺の深刻な環境汚染の実態が語られました。海兵隊員として沖縄の米軍基地にいたことのあるジェフさんは「基地の外から抗議行動をする沖縄の人々に中から声をかけることはできなかった。今回、沖縄の人々に出会えるのが本当にうれしい」と語っていました。

「アメリカばんざい」は、藤本幸久監督・森の映画社制作。06年から08年にかけて全米各地を延べ7回、200日に渡り帰還兵とその家族への取材を重ね、「戦争大国」アメリカの陰の部分を探り出します。上映集会で藤本監督は「マスコミではアメリカの大きな声しか伝えないが、この映画では小さな声をたくさん集めた。アメリカの小さな声に耳を傾けてほしい」と訴え、一人でも多くの人に見ていただきたい映画です。

名護市辺野古沿岸域の新基地建設につながるグアム移転協定に関する意見書

在沖米海兵隊のグアム移転に関する協定については、国会に提出されているが、この協定は、2006年5月に取りまとめられた再編実施のための日米のロードマップに基づく海兵隊のグアム移転、普天間飛行場の県内移設及び嘉手納飛行場より南の基地の返還などいわゆるパッケージ論を基本とし、辺野古沿岸域への新基地建設等、米軍再編計画の実施とグアム移転費用の日本負担を明確に打ち出しており、この結果、将来にわたり県民生活に深い影響を与える懸念が生じている。／このような重大なことを地元への事前説明なしに、しかも短期間で手続を進めたことについて、本県議会を初め県民は強い不信感を抱かざるを得ない。特に、政府がこれまで「地元の声に耳を傾ける」としてきただけになおさらである。／国土面積のわずか0.6%にすぎない狭隘な本県に、全国の米軍専用施設面積の約75%が集中し、基地に隣接した生活を強いられている県民の思いは、過重な基地負担の軽減であり、昨年7月18日の県議会の議決にあるように名護市辺野古沿岸域への新基地の建設に反対することである。民意を無視して締結されたこのような協定は到底県民が納得するものではなく、県民の激しい反発を招くだけである。／よって、本県議会は、県民の生命、財産及び生活環境を守る立場から、在沖米海兵隊のグアム移転に関する協定の批准を行わず、県民の声に耳を傾け、県民の目に見える形での基地負担の軽減を早急に実現するよう強く要請する。／以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。／平成21年3月25日／沖縄県議会
内閣総理大臣／外務大臣／防衛大臣／沖縄及び北方対策担当大臣 あて